

## けっこう楽しい「自分研究」

小道モコさん著「あたし研究」(クリエイツかもがわ発行)。大好きな本の一つです。ASD(自閉症スペクトラム障害)である小道さんご自身の経験やその自己分析について、ご自身の言葉と絵で綴られています。とてもわかりやすく、おもしろく、ほっこりした気持ちになります。まだお読みでない方、興味のある方は、是非一度読んでみてください。

「あたし研究」を読みながら、苦笑いした部分がたくさんあります。小道さんと私と、「程度の差」はあるにせよ、結構共通項が多い、ということ。



私(聳城)は幼少の頃から、どうしても自己中心的な子どもでした。まあ、子どもというのはたいがい自己中心的であると思いますが、私は自己中心的な加減がどうやらひと味違ったようです。いつも母から「あんたは変わったこと言うなあ」とあきれられ、「地球はあんた中心に回ってない」と怒られていました。(そんなときにさえ「地軸を中心に回っているはずの地球が私を中心に回る」というイメージが持てず母に説明を迫った私…。)また、そうやって親から「自分中心は悪」とすり込まれた私は、後年、さだまさしの「主人公」という曲の「…私の人生の中では私が主人公」というくだりを聞いたときに激しい違和感を感じ、「こんな身勝手な思想は許されないはずなのに」と深く悩んだことを覚えています。

小学校の中学年くらいの時、社会か何かの授業で「私達の

町の地図を書く」という作業がありました。班ごとに模造紙の地図を作っていきます。その時、私は「分担して地図を書いていけばいい!」とひらめきました。すぐさま「5人で分担しよう」と提案し、手に持っていた油性マジックで模造紙を5分割する線を引きました。驚いたのは友達&先生。「何するの!?!」と先生に制止され、友達に責められ…。

我ながら、自分が「ただ者ではない」と思うのは、この事象について、本当に「とんでもないことをした。みんながびっくりしたり怒ったりするのは当たり前だ。」と腑に落ちたのが、30歳を過ぎてからだったのです。それまで、なんとなく「確かに良くないことかも知れないけど」程度に反省はしても、「でも、すごくいいアイデアだったのに。なんで否定されたんだろう。」という感覚の方が強かったのです。



感情のムラも激しい子どもでした。自分が正しいと思うことは当然のように主張し、それが否定されるとあからさまに不機嫌に。屁理屈をこねて、自分を正当化したり相手の不当性を主張したり。(これも、その屁理屈を「屁理屈」と自覚できるようになったのは30歳を超えていたかと…。)物にあたることも多く、人のいないところでたくさんの物を壊して「憂さ晴らし」したりしました。納得できないことで怒られたり、嫌われたり、場違いな言動でひんしゅくを買ってしまったたり、ということがとにかくたくさんありました。今、客観的に思い起こせば結構「生きにくい人生だったな」と思います。それより何より、まわりの家族や友達も迷惑だったろうな、と思うのですが…。

友達はいました。いつの時代も、友達には恵まれました。今になって思えば、とてもありがたい友達がいてくれたものだ感謝の気持ちでいっぱいです。

というのも、そばにいる友達は、いつも私に言ってくれました。「あんたの言い方、冷たいよね。」「お天気やさんだよ。」「そういう言い方、



ないんじゃない?」「それ、わがままやろ。」「あんた、ほんまに変わってるよなあ。」…いずれも私は自覚がなかったので、驚いたり落ちこんだり、時として喧嘩になったり。でも、人間としてとても大切なことを教えてもらったと思います。

20代後半ぐらいからでしょうか、「もしかして、私が絶対正しいわけではないのかも」と思った私は、人間ウォッチングをするようになりました。よく見てみれば、まわりの人達のなんと素晴らしいこと!!自分の感覚とは明らかに違う「生き方」が溢れています。憧れを抱く人もたくさん見つけました。今では「自分は他人の心情を察することが苦手な人間。独りよがりの思いこみも強く物事を総合的に判断できにくい人間。だから、かなり注意が必要。」と自覚しています。人の意見をしっかり聞いたり、もしも自分だったら、と丁寧に置き換えたりして考えてからでないと、失敗をしてしまうことが多いのです。「よくそんなんでも支援部やってるね」と笑われそうですが、実は、特別支援教育に携わるようになってからいろいろと気付かされ、鍛えられている部分が多いのです。

自分研究をすれば、誰でも皆「呆れた自分」「笑える自分」「仕方がない自分」と向き合わざるを得ないと思います。なくて七癖、人間は所詮自分の脳みその範囲でしか物事を判断したり処理したりできません。そんな「姿形はある程度共通だけれど中身は千差万別」である生き物が寄り集まって生活していかなければならないのが「社会」です。まずは自分の癖を知り、落とし穴を自覚し、それに対する対策を立てる…結構大変ですが、結果として案外自分自身が生きやすくなるものですね。

まだ「自分研究」をされたことのない方はオススメ。自分研究は大人になってからの方が面白いかも。過去の汚点を笑い飛ばし、愛しい自分に出会えたりします。

(支援部 聳城)

